

西諸県地域の普及活動

令和2年10月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 南ヶ丘地区の茶園で水圧試験を実施

5日、西諸県農林振興局の主催で畑かん事業によりスプリンクラーを導入した小林市南ヶ丘の茶園で水圧試験を実施しました。

茶生産者、振興局、普及センター、小林市役所、西諸土地改良区、施工業者、メーカー合わせて計20名が参加し、全てのほ場で設計水圧を満たしているか確認をしました。

その結果、全てのほ場で設計水圧を満たしており、生産者も満足されていました。

畑かん水を活用した良質茶の生産を発端に、畑かん水の利用が拡大していくよう努めていきます。



【南ヶ丘茶園の風景】

2) 10月期子牛郡品評会の開催

12日、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和2年10月期子牛郡品評会が開催されました。

16日から18日に開催される10月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た49頭が出品され、審査の結果、優等賞に10頭、壺等賞に24頭、弐等賞に15頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は小林市の橋満裕治さん出品の「すずひめ519」号（耕富士ー美徳国ー安福久）、2席は小林市の黒木領一さん出品の「みきふく」号（美喜久ー勝平正ー糸北国）、3席は小林市の斉藤憲之さん出品の「りさ51」号（耕富士ー美徳国ー勝平正）が受賞しました。受賞牛は、種牛性や品位に富み、輪郭鮮明、体積豊かで毛質も良い等との講評がされました。



【優等賞首席すずひめ519号】

3) 西諸県郡市畜産販売農業組合連合会設立70周年記念式典の開催

19日、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜産販売農業組合連合会設立70周年並びに市場移転35周年記念式典が開催されました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、規模は縮小して行われました。

表彰者は、これまでのセリ市購買に係る功績を讃え、30の団体や個人が選ばれました。

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(基本、重点)に関する普及活動

(地域の維持・発展をめざす集落営農のステップアップ)

1) (株)西郷営農オクラ栽培支援

16日、(株)西郷営農が本年から始めたオクラほ場の巡回を行いました。本年は、播種後に冠水による播き直しを行った結果、生育は不揃いとなり収穫作業が非効率となりました。月末には、イボ果の発生も見られるようになり、収穫を終了しました。

翌月には、播種時期、排水対策及び肥培管理などの検証を行う予定です。

2) 食味向上展示ほで収穫作業を実施

10月3日に食味向上展示ほで収穫作業を行いました。食味向上展示ほでは、以下の取組を行いました。

①5㎡ごとに施肥量を変え、ほ場の施肥むらの解消。

②粒張りのある良食味米を目指し、苗箱への尿素追肥や水管理による茎数制限、遅めの追肥やケイ酸質資材の施用。

③出穂期以降の高温が原因で発生する白未熟粒を抑制するため、用水のかけ流しによるほ場内水温・地温の低下。以上の取組により、本年度は地域全体で1等米比率が10%を下回る中で、食味向上展示ほにおいては、全量1等米という結果となりました。

今後、地域の1等米比率向上に向け、本年度の実証結果の分析を行い、地域に普及できる技術となるよう検証を進めていきます。



【コンバイン収穫の様子】

(にしもろ農業の明日を元気にする担い手の確保・育成)

1) 経営管理セミナーの開催

22、29日、普及センターで複式簿記の初心者を対象に坂本敬子税理士を講師に招き、青色申告や複式簿記の基礎を学修しました。

複式簿記の基本について理解を深めるため、参加者を2チームに分けて会社経営をゲームで行いました。ゲームで楽しく会社を経営することで、売上原価や棚卸の考え方や経営の見える化の手順などを学修しました。来月5日の研修会では資金繰りについて学修する予定です。



【経営管理セミナー】

2) 就農相談者に対応し、経営改善や就農に向けた助言

7、14、20日、えびの市役所、19、29日、普及センターで、4名の就農相談に対応しました。うち1名はくわい栽培希望の相談者で就農支援策に関する相談で、その他は、ブローラーの新規就農、肉用牛繁殖の研修後就農及びハウスきゅうりの研修後就農について各1名、就農準備に関する相談に対応しました。

青年等就農計画の認定に関する要件や、新規就農の際の実務研修の必要性、認定新規

就農者制度、農業次世代人材投資事業の要件、青年等就農計画申請書及び収支計画作成について助言しました。

※就農相談対応（面談）4名 6回（2回は現地確認）

（内訳：小林市；肉用牛繁殖、施設野菜各1名、えびの市；くわい、ブロイラー各1名）

3) JAこぼやしアグリトレーニングセンター研修生の円滑な就農に向けた就農計画作成支援を実施

28日、普及センターにおいて、関係機関と連携し、青年等就農計画認定申請書と収支計画の作成について助言しました。規模拡大の構想や労働時間の試算による雇用費に関する検討や、資本装備の内容や見積もり額の確認を行い、関係機関で支援しました。

今後、具体的な申請書の作成支援を進め、達成見込のある現実的な収支計画の作成を支援し、認定新規就農者へ導いていきます。

4) 農業次世代人材投資資金活用者の就農状況確認の実施

7日、普及センターで、小林市2名（夫婦型）の事業活用者の就農状況確認を面談により実施しました。就農5年目で、交付期間における最終回の面談で、前年度の生産量や売上高などの経営実績や本年度の経営状況を確認したところ、改善が図られていました。交付期間終了後も、自身の経営課題に対して対策を講じながら、経営が安定していくことが期待されます。



【就農状況確認における助言】

5) にしもろサップが（大盛況に）農産物即売会を開催

22日、えびの市役所、小林市役所及び小林総合庁舎において、「にしもろサップ農産物即売会」を開催しました。

SAP会員6名、各市の担当者3名及び普及センター職員4名が参加し、会員自らが生産した生産物を販売しました。

今回で3年目となる取組で、カラーピーマン、キャベツなどの野菜類、ブドウ「シャインマスカット」とナシ「新興」の果樹類に加えて、茶やもち麦を販売し、昨年度の販売実績を大きく上回る大盛況ぶりでした。

来年度もこの時期に開催し、にしもろサップの恒例行事として、組織活動のPRと地域の活性化を図っていきます。



【えびの市役所での即売】



【西諸県農林振興局での即売】

6) 青年等就農計画に基づく繁殖牛の収支計画作成セミナー開催

27日、普及センターで、就農希望者が、自身で就農計画を作成でき、就農について判断できるよう関係機関で支援手法を共有するために小林市、高原町、えびの市の担当者4名及び普及センター職員3名が参加し、肉用牛繁殖の認定新規就農者が経営開始する際の収支計画作成支援手法について、講義と実習を行いました。

新規就農者が、認定新規就農者として経営開始することによる経営安定と定着を促していきます。



【繁殖牛の計画作成セミナー】

(適正な管理と飼料基盤に立脚した強い畜産経営体の育成)

1) 飼料用イネの収量調査を実施

5日、高原町内に設置した実証ほにおいて飼料用イネ品種「たちすずか」の収量調査を行いました。

「たちすずか」は当地域ではほとんど作付されていない品種ですが、広く普及している「ミナミュタカ」等の品種に加えて選択枝の一つとなれるか、当地域における適応性や普及性について検討していく予定です。



【調査の様子】

(技術力向上と経営安定による施設果菜類生産の強化)

1) えびの市イチゴ団地栽培講習会の開催

23日、JAえびの市本所でイチゴ団地入植者3名を対象に講習会を行いました。開催にあたって新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、参加者全員の検温やマスクの着用、手のアルコール消毒などの対策が取られました。

普及センターから主要な病害虫の特徴と対策、天敵を利用したハダニの防除等について説明したあと、JAから当面の栽培管理について説明がありました。

ちょうど定植が終わった時期であるため、今回の講習会の内容を活かして病害虫の被害を受けず順調に管理されることが期待されます。



【講習会の様子】

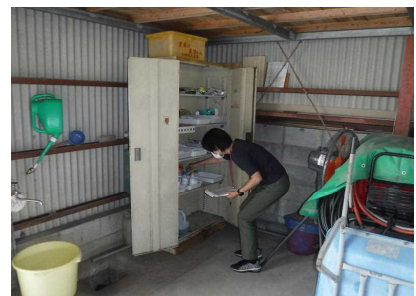
(次代へ繋げる”にしもろ”果樹の産地力強化)

1) JAこばやしマンゴー部会ひなたGAP研究会の内部監査を実施

6日から21日にかけて、果樹技術員が中心となって、研究会員23戸全戸を対象に内部監査を行いました。内部監査では、関係書類の保管・記録状況やほ場や倉庫等、団体ルールの実践状況を確認しました。

会員全員、ルールに則り「ひなたGAP」に取り組んでおり、ほぼ是正改善箇所もありませんでした。

会員からは、「ひなたGAP」の取り組んだことで、整理整頓され作業効率良くなったり、農薬の適正管理の意識が高まったとの感想が聞かれました。



【内部監査（農薬庫）の状況】

(気候変動に打ち勝ち、取引先から信頼される露地野菜産地の育成)

1) にんじん(9ト^ン取り)での生育調査の実施

20日、小林市千歳地区の加工用にんじんの9トン取りのほ場で、播種から60日後の生育調査を小林市、畑作園芸支場と協力して実施しました。

生育調査の結果、根は密植を行った試験区の方が慣行区より小さく、茎葉は試験区の方が慣行区より大きい傾向が見られ、想定どおりの生育となっていました。

今後は、かん水によりにんじんの根の肥大を促進させる管理を行うこととしており、引き続き生育状況を観察し、地域での普及性を確認することとしています。



【小林市千歳の調査ほ場】

2) しょうが展示ほ調査の実施

23日と30日に、かん水資材の比較展示ほで生育調査と収量調査を実施しました。

結果は慣行の30番タイプのスプリンクラーに比べ水の粒径の細かなかん水チューブの方が根茎腐敗病などの病害の発生は少なく、生育及び収量に大きな違いは見られないという結果でした。しかし、今回実施した地際から80cm上部に設置したかん水チューブによるかん水は、かん水チューブが強風にあおられ落下することがあったため、設置方法の改善が求められる結果となりました。

今後もしょうがにおける病害に左右されないかん水方法の検討を継続します。



【収穫調査】

3) かんしょ茎・根腐敗症調査の実施

13～15日に、小林市、えびの市、高原町のかんしょが作付けされているほ場において、茎根腐敗症状発生状況調査を実施しました。9月調査において基腐病を疑う株を確認したものの、普及センターでの診断、農試への持ち込みを経て基腐病ではないことがわかりました。

今後は、関係機関と情報を共有し、次作に向けての研修会を開催する予定です。

また、29日には、県内の普及指導員、農業試験場研究員及び専門技術指導員がバイテクセンターで増殖をおこなっているかんしょ苗の病害発生調査を行い、基腐病が発生していないことを確認しました。



【バイテクセンターでの苗の調査】

(将来を見据えた西諸茶産地の活性化)

1) 茶業青年会の茶園巡回を実施

7日、西諸茶業青年会員の技術向上を目的に茶園巡回を実施し、青年会員7名、関係機関4名の計11名が参加しました。

今回の巡回では、秋整枝の時期や位置等についての意見交換や病虫害発生情報の共有を行いました。

また、巡回終了後には青年会のみで荒茶求評会を実施し、青年会の荒茶の外観と内質を確認し、意見交換を行いました。



【秋整枝の意見交換】

(技術と経営改善で目指す県内一のキク産地)

1) キク省力化技術導入・芽無し性キク「精の一世」の調査を実施

西諸県地域では摘蕾作業省力化を目的に脇芽が発生しにくい「精の一世」の導入が進んでいますが、近年、夏期高温期を経過する9月～10月の開花作型において、花が扁平状になる奇形花の発生が問題となっています。そこで、普及センターでは、植物が持つ耐熱性誘導資材の効果確認試験を行いました。残念ながら、今回の結果では、資材を用いても奇形花の発生を抑制することはできませんでしたが、今後も継続して遮熱資材や細霧冷房等技術について展示ほ調査を実施していく予定です。



【キク生育調査の様子】

2) 高原町花卉部会定例会・労力に関する聞き取り調査を実施

22日、4戸（夫婦での参加8名）の参加のもと開催されました。

普及センターからは、平成30年度に策定した産地ビジョン目標達成のための取組のひとつである「産地体制強化」の支援の一環として、労働力調査、産地サポートについて意見について聞き取り調査を行いました。今回の調査結果は、生産者や関係機関へフィードバックして今後の支援の参考にしていきます。

2 プロジェクト(基本、重点) 以外の普及活動

1) みやざき地頭鶏農場巡回を実施

2日、7日に市や家畜保健衛生所と連携してみやざき地頭鶏の農場（小林市2カ所、えびの市1カ所）を訪問しました。

飼養衛生管理基準に係る調査を家畜保健衛生所職員が行い、普及センターからは飼養管理状況等について聞き取りを行いました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、主な出荷先である飲食店の営業自粛等があり、取引量が減少しており、今後を見据えながらの難しい経営が続いています。引き続き地産地消の推進等の取組支援を行っていきます。



【調査の様子】

2) 小林市にら生産部会圃場巡回及び栽培講習会の開催

23日に標記巡回をおこない、9名中8名が参加しました。部会員全ての圃場を巡回する中で、相互の取組や今年作の栽培上の問題点、今後の出荷までの取組など相互に意見交換ができました。参加者は捨て刈りの時期と今後の出荷までのスケジュール、アザミウマと葉先枯れの防除に悩んでいる状況でした。巡回後、集荷場で栽培講習会が開催され、普及センターからは、冬期の保温管理、葉先枯れ予防及びアザミウマ類の防除ポイントについて講習をおこないました。

3) JAこぼやし、JAえびの市と普及センターの品目担当者会の開催

27日にキャベツ、29日にほうれんそうの担当者会を開催しました。

キャベツは、8月定植10月下旬出荷作型の加工用キャベツの品種比較展示ほど株揃いや黒腐病の発生について品種による違いを調査を兼ねて、現地で研修をおこないました。今作は8月の高温と9月の台風で生育条件が良くなかったことから、品種による生育差が良く見られ良い研修ができました。

ほうれんそうは、各JA支所毎の今年作の栽培計画と播種状況の情報交換を実施しました。今年作は新型コロナの影響から加工工場の生産計画が平年より遅れて播種する計画となり、普及センターからは、晩生の基幹品種が本年作で廃番となることから、代替品種の試作計画、除草剤による薬害の実証、作成した生育障害事例集の研修会を開催しました。

4) 果樹技術員会にて果樹産地構造改革計画について検討

22日果樹技術員会が普及センターで開催され、関係機関13名が参加しました。

今回、果樹産地構造改革計画について検討しました。今回の計画見直しに当たって、品目ごとの将来性について検討するとともに、国から示された新計画書変更ポイントの確認しました。併せて、各所属の役割分担についても整理しました。

また、次期普及基本計画（案）について普及センターから説明し、関係機関と意見交換を行いました。

次回技術員会では、産地計画の内容固めと果樹経営承継について検討する予定です。

5) 県農業改良普及協会西諸県支部研修会の開催

8日、当普及センターの職員（会員21名）を対象に普及指導員の資質の向上を目的に開催しました。例年は、北諸県支部との合同開催ですが本年は単独での開催となりました。

当日は現地研修として①法人支援の取組について、小林市内の農業法人の夏ニラ栽培の取組、室内研修として②畑かん利用と事業の仕組みについて研修を行いました。

両課題とも、当普及センターの重点課題であり、農業・農村の活性化と農業者の高度で多様なニーズに対し効率的・効果的な普及指導活動を展開することが重要となるため、大いに参考となる研修会になりました。



【夏ニラ栽培の現地研修】